

都留市寺記

金井

臨濟宗 富春山桂林寺

本寺は京都妙心寺

末寺は現在左記六。カ寺である。富春寺、瑞雲寺、東陽院、清泉寺、天正寺、宝積寺。

本尊由緒

本尊は東方薬師瑠璃光如来坐体の木像にして、像長は43 cm、膝張り36 cm、面長15 cm、面巾11 cm、胎内に釈迦尊像が祀られている。胎内仏の像長32 cm、面長11 cm、面巾6 cm、仏工運慶の作と伝えられている。

合祀

志に記されている。

開山履歷

創建開山格智禪師は相州鎌倉建長寺に住していたが、退いてこの地に来錫し当寺を開創した。依て建長寺派に属していた。その後隱退して諸方を歴遊し仏舎の癡顛するを憂えてこれを復興し末刹とした。従つて往古よりこの寺は本寺格であつた。永享五年八月十五日入寂享年八十九歳。

結構規模

物置	2 K × 3 K	本堂	65 K × 55 K、	庫裡	55 K × 85 K、	玄關	4 K × 3 K、	藥師堂	2 K × 25 K
----	-----------------	----	--------------------	----	--------------------	----	------------------	-----	------------------

歷代住職

創建開山格智禪師、中興竺元禪師、三榮西堂、永岳西堂、咲院西堂（以上建長寺派）。

一世中興開山始祖大光覺雲禪師安山宗泰和尚。二世担道和尚——三世禪閑和尚——四世湘外和尚——五世閩山和尚——六世蘭室和尚——七世聯芳和尚——八世寬量和尚——九世月休和尚——十世快隣和尚——十一世機山和尚——十二世遂巖和尚——十三世月階和尚——十四世碩道宗博（現住）

古器、什器、宝物、

明治十九年火災のため焼失。



桂 林 寺 本 堂

末寺中津森誓願寺
本尊觀世音菩薩
元大奈良部落に安
置されていた薬師
如来

興起緣由

明徳年間格智禪師
此の地に遊化のと
き、領主小山田出
羽守富春、師の高
徳を帰仰し大檀越
となり開基す。公
の諱を以て山号と
なし富春山桂林寺

と称した。法名は桂林寺桂堂香公居士。中興開基は小山田左兵衛尉信茂にして、法名は夷山宗悟居士。小山田氏の墓所は今に存している。

この寺古は鎌倉建長寺末にて末寺も数多くあったが、後世妙心寺に属し末刹も大方離れて今は六カ寺である。なお、「道和尚の時領主秋元越中守寄進として諸堂造営あり」と甲斐

大馨子は唐金製にして鎌倉時代のものである。と伝えられている。

白隱禪師語錄

石仙像

石仏像は境内に数体安置されている。

恒例の宗教行事

一月一日
祝禱

二月十五日 涅槃忌

三月十一日 開山忌

四月八日
仏生誕会

八月十二日 施餓鬼会

九月五日 達磨忌

十月十二日 花園総会

十二月十二日 無相忌

民間信仰による行事

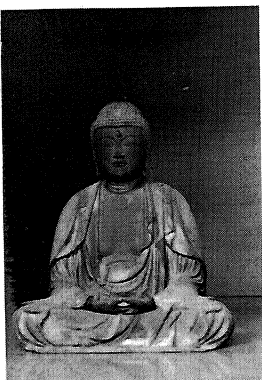
四月十五日 弁財天縁日

十月十二日 藥師如來緣日

伝説

① 叶ケ池

創建開山格智禪師鎌倉より遊化の際、鶴ヶ岡八幡と江の島弁



桂林寺 本尊



小山田出羽守の墓

財天を信奉し、弁財天を護法神として竹林内小池の辺りに勧請した。土人旱魃に逢う毎に雨を乞うたが果して奇瑞があり、いわゆる弁財天の感応靈験があったといわれている。この故にこの池のことを叶う池と称し、金井という部落名の起源であるとも伝えられている。

②豊兆の桜

樹齢数百年に及ぶといわれる、開山禪師自哉の桜がある。

土人これを豊兆の桜と伝唱している。

その他

白隠禪師と桂林寺

六世蘭室和尚は白隠禪師との親交極めて密であった。七世、八世、九世各和尚はそれぞれ白隠門下で禪師の影響を受けている。十世快隣和尚は白隠下東領和尚の法嗣で当代一流の禪匠であった。

白隠禪師語録「荊叢毒藥」抜粋

桂林和尚到上堂拈五祖演禪師示衆云諸莊早損我總不憂只憂
禪家無眼一今夏百余人室中拈二箇狗子無仏性話二無一箇會得
此可為憂一師曰東山老人暗地裡放二無煙黒火二欲一焦爛多少
衲僧命根一大可レ恐レ鶴林即不然何管無二人會二老僧說話一底上今歲
蝗虫入二西東境一但恨我住庵七十箇二饑納子擎二空鉢一歸來抱レ膝二

暗嗟呼卓二拄杖一云苦中樂樂中若且喜桂林蔭涼樹前村聞說大秋
成又卓一下下座。二更一に桂林蘭室和尚三回忌拈香曰
惟時延享乙丑魁夏念九向二前住富春蘭室郁和尚三回忌景一補処
桂林堂頭以抄春上巳日二予展一開齊筵於毘那城中一日出卯雲門
胡餅滿肚二不告玉饌於香積国裡一輪当午金牛飯桶一堂其誦經謳
呪次飯二手於山野一拈起一弁一惟老師初在二桂林一者二十霜鉗鎚
妙密法二懂孤危一爐韞密埋二伏万石毒焰一笏室鎮膏二轄永劫願輪一
中虫三潜遁二睡前村福寿老院一願海則老増深広也今西東數村二縹素一
勇義進善者皆此老提教二摧門教諭力也桂林堂頭統二得此老扶宗一
大志レ拈一拳拳忠体令者十齡這回翼二自得丈室生平懷素一命予評唱不
思議解脫經一者一会遠邑近里各孜孜而大義既成辨顧復惟非老
師二從前風靡余波一而什麼那於此予亦燒香展拜欲レ稱揚先人余
烈一拈香曰者木札二藥不仮造化工一不勞剪代力二無量劫来沈波一
黒暗海裏一山野四十年前向二鴉臭破蒲団上一無明黒火抗裏二惣然一
摸索著東拈西弄驚二殺仏界一震裂魔宮二誰弁其由一即今熱向
炉中貫二穿老師大寂定中遼天鼻孔一十方常住三宝竜天護法濕
胎卵化有情非情誰不受斯力二毒焰薫徹臭蘭室東甲人今夢亦芳師一
道三年大煥發庵羅園裏一糸香。